

愛媛 CNF 関連産業振興ビジョン骨子

現状認識とビジョンの目的

国は、「日本再興戦略」等において、セルロースナノファイバー（以下、「CNF」という。）を次世代の成長産業と位置付けており、2030年に1兆円規模の新市場創造を謳っている。

そのような中、愛媛県内には、CNF製造等の基礎研究を行っている愛媛大学紙産業イノベーションセンターや、CNF製造に取組む大手製紙企業が立地しており、さらに、全国有数の規模を誇る製紙・繊維などの地場産業や、生産高日本一の柑橘などの地域資源が豊富にあることから、これら**本県独自の地域産業・資源**を活用して、**CNF技術の社会実装化**を進め、**CNF先進県**を目指す。

これまでの取組み

愛媛県では、平成22年度から県産業技術研究所においてCNF関連の研究を開始するとともに、愛媛大学紙産業イノベーションセンターとの連携、えひめ産業振興財団主催のCNF研究会などを通じて、CNFの普及を促進。

また、平成28年度からは、愛媛CNF関連産業振興事業を開始し、複合材料・食品・繊維・紙産業の各分野において産学官の関係機関が連携して試作品開発を実施しCNF利用の可能性を検討。

特に、本県特産の柑橘加工残渣を原料としたナノファイバー（以下、「柑橘ナノファイバー」という。）については、本県オリジナルの素材になりえるため、食品や繊維など幅広い分野への利用を検討。

今後の課題

- (1) 構造材料への適用など大量かつ特徴を活かした木材由来CNFの利用につなげるため、CNF複合化技術の確立が必要
- (2) 本県オリジナルである柑橘ナノファイバーの本格的利用に向けて、詳細な成分特定や分析手法の規格化が必要

基本戦略

推進期間 2019～2025年度（7年間）

- (1) **参入企業の発掘**
 - 県内にCNFの製造から用途開発まで可能な機関が集積している利点を活かし、紙産業など全国有数の規模を誇る本県地域産業のCNF関連産業への参入並びに活性化を支援
- (2) **高度な技術人材等の養成**
 - 四国CNFプラットフォームをはじめとする外部機関との連携により、CNFの取扱いに通じた高度な技術人材等を養成
- (3) **CNF技術の社会実装化に向けた複合化技術の確立**
 - 大量のCNF利用につながる構造材料や紙・シート状素材などへの代替用途、CNFの特性が際立つニッチな分野についても検討を行い、県内ものづくり企業の特徴を踏まえた高付加価値製品化を可能とするCNF複合化技術を確立
- (4) **柑橘ナノファイバー（柑橘NF）の規格化**
 - 柑橘ナノファイバーについては、愛媛オリジナルというアドバンテージを十分に活かしていくため、未解明となっている成分の特定や分析手法の規格化、機能性評価などを行い、「柑橘ナノファイバー Ehimeモデル」を確立

産学官ネットワーク

県内ものづくり企業、愛媛大学紙産業イノベーションセンター及び県産業技術研究所が連携して産学官共同研究を推進していくため、県内地域にある産業・資源などを有機的に結合させた産学官のネットワークを構築し今後の事業に取り組む。また、地域外の機関との連携を促進する。

目 標
(2025年度時点)

- CNF関連産業への参入企業数 : 30社
- CNF関連分野での製品化件数 : 10件
- CNF関連分野での技術人材の養成 : 100人